

調査委員会における調査研究報告書

教科名（美術）

調査研究の観点	所 見		
	発行者（開隆堂） 発行者番号（ 9 ）	発行者（光村図書出版） 発行者番号（ 38 ）	発行者（日本文教出版） 発行者番号（ 116 ）
1 内 容	①「絵画・彫刻」では、制作の過程や資料を順番に掲載している。作品について作者の解説が載っているため、制作意図が明確になっている。絵画、版画、彫刻の題材がバランスよく掲載されている。 ②「デザイン・工芸」では、授業で活用しやすい題材や内容が多く掲載されている。グラフィックデザインやプロダクトデザイン、工芸などバランスよく取り扱っている。 ③大きく扱った作品が複数ある。 ④それぞれの素材や内容が、簡潔にまとめ、素材を基に考えさせるようになっている。	①「絵画・彫刻」では、制作の過程や資料を順番に掲載している。作品について作者の解説が載っているため、制作意図が明確になっている。絵画、版画、彫刻の題材がバランスよく掲載されている。 ②「デザイン・工芸」では、授業で活用しやすい題材や内容が多く掲載されている。グラフィックデザインやプロダクトデザイン、工芸などバランスよく取り扱っている。 ③見開きで大きく扱った作品が複数ある。 ④「学習を支える資料」の内容が充実しており、素描・版画・デザイン・制作・写真・映像などの手法がページを多く割き、細かく説明されている。	①「絵画・彫刻」では、生徒作品や作家作品の図版が多く掲載され、授業で活用できる題材や内容が豊富である。解説図が大きい。 ②「デザイン・工芸」では、グラフィックデザインや環境デザイン、メディアデザイン、紙、木、土、金属の工芸、伝統工芸などバランスよく取り扱っている。 ③屏風の図版では、ページを実際に折って立てかけるようにできる工夫がされている。 ④テーマごとに考えられたタイトルとともに、取り上げた「各素材の魅力や個性」を引き出し、考えさせながら、創作に向かわせる内容になっている。
2 構成・分量	①資料のページを適宜設けている。（美術1、 67 ページ中 15 ページ、2・3、123 ページ中 16 ページ） ②美術1では「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」の中に「鑑賞中心の題材」が含まれ、美術2・3では鑑賞の分野が独立している。 ③ウェブ上で作品例や動画が見られるよう、誌面にQRコードがテーマごとに付いている。 ④生徒作品に比べ、作家作品の掲載が少ない。作品をつくった作家の言葉が載せられている。	①資料のページが多く、充実している。（美術1、81 ページ中 23 ページ、2・3、105 ページ中 27 ページ） ②表現の活動と関連づけて指導できるように「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」の中に「鑑賞中心の題材」が含まれている。 ③ウェブ上で作品画像や技法等の解説が見られる。音声での解説が多く充実しており、誌面上のQRコードからコンテンツが見られる。 ④生徒作品と作家の作品はバランスよい分量になっている。見開きで作家作品が扱われている。	①資料のページが充実している。（美術1、75 ページ中 17 ページ、2・3、上 65 ページ中 15 ページ、2・3 下 67 ページ中 13 ページ） ②表現の活動と関連付けて指導できるよう「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」の中に「鑑賞する活動を主にした題材」が含まれる。 ③作品画像や動画、技法等、ウェブ上にまとまっており、誌面上のQRコードからコンテンツが見られる。 ④生徒作品と作家作品はバランスよい分量になっている。冒頭や見開きで作家作品が扱われている。
3 表記・表現	①興味・関心向上をねらいとした題材名がついている。字体はゴシック体で少し小さい。 ②知・思・学という一文字のアイコンで学習目標を表記している。 ③見開きで、複数の資料を提示している。 ④美術の分野が色分けされ、表現と鑑賞に分けてある。 ⑤写真の取り扱いが全体的に小さい。 ⑥全体の書体がゴシック体で統一され、書体の大きさが変えられている。 ⑦学びの資料は豊富である。レイアウトが細かい部分がある。	①見出し・題材名について、題材の内容が端的である。 ②学習目標が1～2つと端的に表記されている。 ③見開きページでは、実寸大の写真を取り入れている。 ④美術の分野が色分けされ、表現と鑑賞に分けてある ⑤各題材のメインとなる参考作品の写真の扱いが大きい。 ⑥明朝体とゴシック体を使い分けられ、書体の大きさも変えられている。 ⑦作品名、作者名の注釈が一か所にまとめて記載されている。	①興味・関心向上をねらいとした題材名が多く、副題がついている。 ②アイコンを使って学びの目標の観点を表記している。 ③見開きページでは、ページの折り目を屏風画の折り目と合わせたり、原寸大の写真を取り入れたりしている。 ④美術分野（絵や彫刻など）と表現・鑑賞を組み合わせで表記している。 ⑤各題材のメインとなる参考作品の写真の扱いが大きい。 ⑥明朝体とゴシック体を使い分けられている。 ⑦吹き出しで造形的な視点が表記されている。また、学びを支える資料では細かく制作手順や技法の説明がされている。
4 使用上の便宜	①「美術2・3」が合本になっている。 ②ユニバーサルデザインの文字が使用されている。 ③折り込みページの内容が、小さめの写真や説明の羅列になっている部分がある。	①「美術2・3」が合本になっている。 ②ユニバーサルデザインの文字が使用されている。 ③版画や絵巻物等のページの紙質を変えたり、消失点をトレス用紙で描かせ、確かめさせたりしている。	①「美術2・3」が上・下の分冊になっている。 ②ユニバーサルデザインの文字が使用されている。 ③折り込みページに大きな作品の全体像や、部分のズームアップを取り入れ、折り込みの裏ページの説明とも関連させている。